

心温かい人々が暮らす町

知っていますか?「部落差別の解消の推進に関する法律」

「部落差別の解消の推進に関する法律」は平成 28 年 12 月 16 日から施行されている法律です。

同和問題とは

日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低位の状態を強いられ、日常生活の上で様々な差別を受けるなどの、我が国固有の重大な人権問題です。

同和問題（部落差別）の解決に向けたこれまでの経緯と課題

同和問題の解決を図るため、国は地方公共団体と共に、昭和 44 年以来 33 年間、特別措置に基づき、地域改善対策を行ってきました。その結果、同和地区の劣悪な環境に対する物的な基盤整備は着実に成果を上げ、一般地区との格差は大きく改善されました。しかしながら、差別発言、差別待遇等の事案のほか、差別的な内容の文書が送付されたりする事案が依然として存在するほか、インターネット上で差別を助長するような内容の書き込みがされるといった事案も発生しています。

また、同和問題の解決を阻む大きな要因として、同和問題を口実として企業・行政機関等へ不当な圧力をかけ、高額な書籍を売りつけるなどの、いわゆるえせ同和行為も問題となっています。

法務省の人権擁護機関の取組

従来から、同和問題（部落差別）の解消を重要な人権課題と捉え、啓発・広報活動等に積極的に取り組むとともに、人権相談及び人権侵犯事件の調査・処理を通じ、被害の救済・予防を図っています。特にインターネット上で、不当な差別的取扱いを助長・誘発する目的で特定の地域を同和地区であると指摘するなどの内容の情報を認知した場合は、その情報の削除をプロバイダ等に要請するなど適切な対応に努めています。

また、全省庁参加の下、「えせ同和行為対策中央省庁連絡協議会」を設置し、地方においても全国の法務局・地方法務局を事務局として「えせ同和行為対策関係機関連絡会」を設置し、えせ同和行為排除のための取組を行っています。

◎同和問題（部落問題）を始めとする人権問題やえせ同和行為でお困りの方はご相談ください。

みんなの人権 110番 ☎ 0570-003-110

インターネット人権相談受付窓口 <https://www.jinken.go.jp/>



インターネット
人権相談受付窓口

◎同和問題（部落差別）に関する参考資料

「えせ同和行為対応の手引」

<https://www.moj.go.jp/content/001361670.pdf>

「人権ライブラリー」

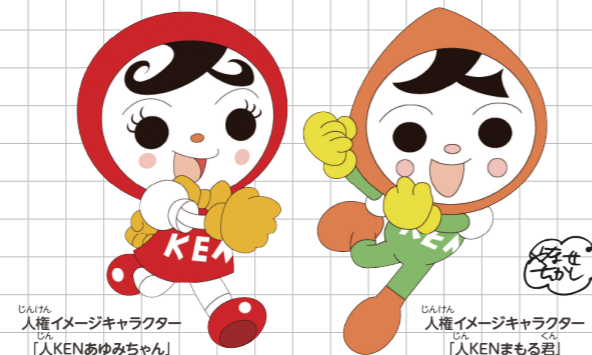
<https://www.jinken-library.jp>



えせ同和行為
対応の手引



人権ライブラリー



じんけん
人権イメージキャラクター
「KEN あゆみちゃん」

じんけん
人権イメージキャラクター
「KEN まもる君」

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。

「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかそ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ No.25 News Letter

ネットワークの重要性とウミガメのご縁

昨年 12 月 8 日から 10 日の 3 日間をかけて第 34 回日本ウミガメ会議名古屋港大会が開催されました。交通の便利が良い開催地と、会場がウミガメの研究でも有名な「名古屋港水族館」であることから約 350 名の参加者で賑わいました。参加者は各地でウミガメに関わる活動を行う団体、水族館、専門学校、大学、自治体関係者から個人的にウミガメが好きなたちなど様々です。年齢層も幅広い方々が参加されました。この会議では毎年、各地域での活動状況、最新の研究情報から全国から報告のあったウミガメの漂着・捕獲・産卵情報の取りまとめなど、多岐にわたる発表・報告があり、情報源としても非常に重要な会議となっています。それ以上に重要なのは、各地域のウミガメ関係者とのネットワークを築く事です。先月にも書きましたが、広い海で回遊生活をするウミガメを知

るためには、1 か所の産卵場で得られる情報では不十分です。また、各地域が抱える課題も、多くの人たちと様々な視点からの意見交換によって、思わぬ解決策が見つかる事もあります。そして、今回の会場となった「名古屋港水族館」は美波町と深いご縁があります。繰り返しになりますが、「日本ウミガメ会議」を開催する切っ掛けとなったのは、旧日和佐町で 1988 年に開催された「日和佐海亀国際会議」です。この会議に出席した当時の若手研究者だった亀崎直樹氏と菅沼弘行氏に対して、国内のウミガメ関係者を集めて情報交換の場を作るように要請したのが、日和佐の地で中学生にウミガメ研究指導を行った近藤康男氏でした。付け加えますと、「日和佐海亀国際会議」に出席された、ジョージ・バラーズ博士も今回の「日本ウミガメ会議」に出席されており、日和佐の地を懐かしんでおられました。さらに、「日和佐海亀国際会議」の開催を世界のウミガメ研究者に呼びかけたのは、その当時「姫路私立水族館」の館長に在籍された内田至氏で、また同氏は当館「日和佐うみがめ博物館カレッタ」開館時の監修を手掛けられています。その後、「名古屋港水族館」の初代館長として着任されるなど、「ウミガメの聖地」である美波町とは深いご縁のある開催地なのです。(館長：平手康市)

うみがめについての質問をお送りください。お答えします!
〒 779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐 浦 369 うみがめ博物館カレッタ【質問係】



応募フォーム

Question

ウミガメに歯はありますか?

Answer

ウミガメを含めて現代を生きるカメの口は鳥のクチバシの様な形になっていて、歯はありません。しかし、約 2 億 4 千万年前の原始的なカメ類のパッポケリスの口には細かい歯がありました。

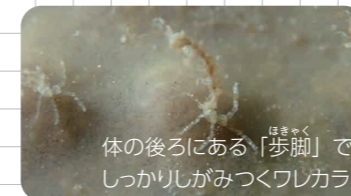
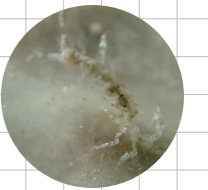
みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します!



ワレカラ

今回は不思議な姿をしたワレカラをご紹介します。「ワレカラ（割れ殻）」という名前は、採集した海藻などについていたワレカラが乾燥して殻が弾ける様子からついたという一説があります。すごく地味な生き物ですが、海藻をよく食べていた昔の日本人には身近な生き物だったので、和歌にもよく詠まれています。大きさは 1 ~ 2cm ほどでナナフシやカマキリのような体型をしていて、体を大きく屈伸させて移動する姿はまるでシャクトリムシのようですがエビやカニの仲間です。岩や海藻、定置網や係留している船のロープなどでよく見られます。またアカウミガメの甲羅にもくっつくこともあり、



体の後ろにある「歩脚」でしっかりしがみついたワレカラ

産卵にやってきたアカウミガメや混獲個体の甲羅にはたくさんのワレカラが動いているのを高確率で確認できます。ワレカラは物の表面についている珪藻や浮遊している有機物を食べるので、藻などが多く付着するアカウミガメの甲羅は最高の住処かもしれませんね。そしてワレカラは小魚や、流れ藻内で生活するウミガメの子供の大切な餌となります。(ダイバー：長楽美保)